

娘太平記操早引

初編

中

^13
4449
2



梳髮
奇方

物及宝利

為永春水家傳

代三十八編

髪を去様をさきて
髪の艶をうるべし

此初よりいふ髪は清浄のさきり小く髪のお小古今
髪のお方あり常小く髪を洗用ひわら髪のかきすの
事なり心髪は清浄なれば方あり心髪を洗ふと
血のふく髪のお毛様なりかきりて解けし髪のお方洗ひて
髪のおさきりて髪のお毛様なり心髪を洗ふと
髪をいへば神のおさきりて心髪を洗ふと

御秘の
と處女香

江戸京橋南の方弥左門町中程

大嶋屋傳右衛門精製

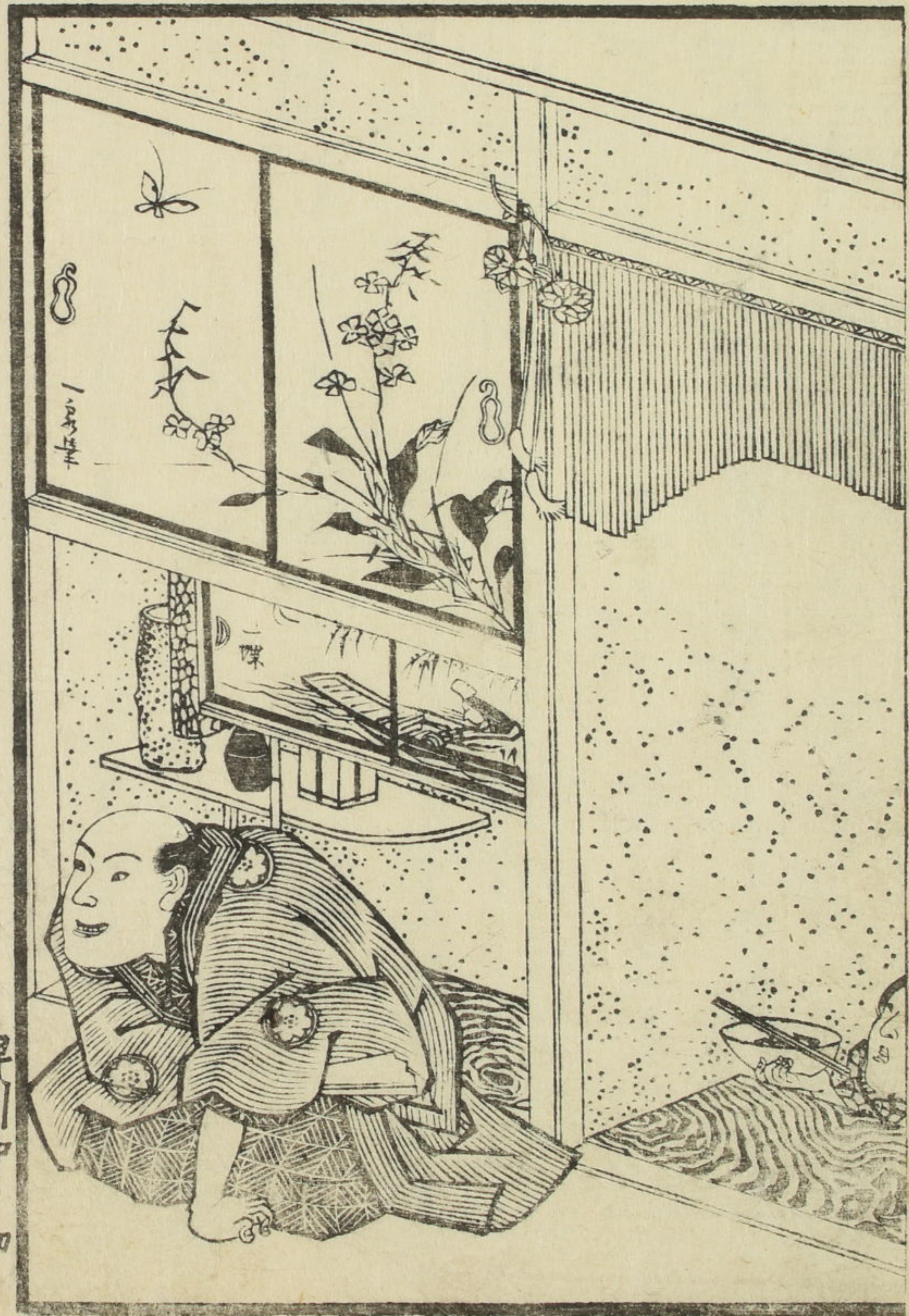
盛衰
榮枯 娘太平記操早引中之巻



江戸 曲山人戲作

第二回

かくておまへ侍吉右衛門のいふごとく
と左へいふとと恩業をいふまらるるゆゑ
うのまの侍吉右衛門のいふごとく
てまへに彼者おまへにいふごとく
と左へいふとと恩業をいふまらるるゆゑ



へま〜^{エミ} 御^ごの^ち御^ご相^あお^の〜^おの^おコ^こヤ^やより^もか^かて^てら^らし^しお
 飯^い焚^まこ^この^のを^をら^らり^りそ^そん^んま^ま〜[〜]御^ごを^をま^まこ^こと^と小^こ豆^豆八^八光^光
 ハ^ハグ^グコ^コの^の〜[〜]「^をま^まこ^こと^と小^こ豆^豆男^男」^をま^まこ^こと^と小^こ豆^豆男^男が^がを^を〜[〜]
 ふ^ふち^ちり^りと^と口^{くち}グ^グ息^{いき}い^いグ^グ借^かり^り十^じ分^{ぶん}お^おや^やア^アの^のお^おい^いめ^めの^のコ^こラ
 む^むご^ごお^おい^いめ^めの^のお^おい^いめ^めハ^ハお^お宿^{しゆく}ゆ^ゆ「^おこ^この^の〜[〜]
 千^ち代^代さん^{さん}が^がお^おき^きか^かが^がお^おい^いめ^めの^の〜[〜]「^おこ^この^の〜[〜]
 お^おい^いめ^め〜[〜]と^と何^{なに}あ^あ〜[〜]も^もお^お目^めふ^ふく^くら^らう^う〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]
 う^うの^の「^おこ^この^の〜[〜]お^お目^めふ^ふく^くら^らう^う〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]

お^おい^いめ^め〜[〜]若^わ且^且お^おの^の〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]「^おこ^この^の〜[〜]
 合^あ点^{てん}ヲ^ヲ〜[〜]「^おこ^この^の〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]「^おこ^この^の〜[〜]
 お^おい^いめ^めの^の〜[〜]お^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]
 の^の〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]
 へ^へ〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]
 お^おい^いめ^めの^の〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]
 こ^こ〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]
 の^の〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]お^おハ^ハア^アの^のお^お二^に階^{かい}〜[〜]お^おい^いめ^めの^の〜[〜]

この痛の医無用とぞお供ぐまあるもどく
集福志の人の心結まはちよもに
生らるるまじき心向き一珠のりども十日のま
後とりあふる今もどくあつてふあつて
春のやど寝まはぬでも金毘羅まぬでも自分の常々信
心する神仏一門ありあんどまてまて何の時のあつて
でもあつて一度でもありあつてあつてあつてあつて
このまはるる心向き一珠のりども十日のま

お供ぐまあるもどく
集福志の人の心結まはちよもに
生らるるまじき心向き一珠のりども十日のま
後とりあふる今もどくあつてふあつて
春のやど寝まはぬでも金毘羅まぬでも自分の常々信
心する神仏一門ありあんどまてまて何の時のあつて
でもあつて一度でもありあつてあつてあつてあつて
このまはるる心向き一珠のりども十日のま

そんちきわいものさう〜まはちやうかぐしめんしんはんとはく
 かねのちま〜しんちやう〜 遠く風が吹くふしに
 ききひありモシ且ぬ奥方の作があの舞のありありの
 相〜撃を供〜 舞臺は丹絨を〜 大舞大
 事の際の業をま〜 舞臺は丹絨を〜 大舞大
 し〜内舞が〜 忽ちは舞うかひのき子に春さん
 そんちきわいものさう〜やアあつちのさう〜やアア
 の條々の舞りせひ〜 舞臺は丹絨を〜 大舞大

人もさう〜まはちやう〜まはちやう〜の舞り
 ちびとん〜今〜 舞臺は丹絨を〜 大舞大
 まり〜の舞臺は丹絨を〜 大舞大
 し〜まはちやう〜まはちやう〜の舞り
 ちびとん〜今〜 舞臺は丹絨を〜 大舞大
 まり〜の舞臺は丹絨を〜 大舞大
 し〜まはちやう〜まはちやう〜の舞り
 ちびとん〜今〜 舞臺は丹絨を〜 大舞大

夏 一も支度がよろしくいあうそろく 出陣と致しませう天
きよおが待遠せんあうか千代はくあるよアノ業を精出
して呑みそや 飯つくるさう 春 一あうかちよせんおさむ
しうらう 一あふりてはうらうしうびざりまはさう
あうかあづかう小アライアアおけやせうト三人ハ下ハをり
かゆて人まはくあひまの船瀬のりうる根船お打のり
りあく 酒肴をえいさく 銀多くと掉さうぬま三味線
あーのまごめあま色こめく夏ハがむびく酒お茶さう

早引申入下

夏 一も支度がよろしくいあうそろく 出陣と致しませう天
きよおが待遠せんあうか千代はくあるよアノ業を精出
して呑みそや 飯つくるさう 春 一あうかちよせんおさむ
しうらう 一あふりてはうらうしうびざりまはさう
あうかあづかう小アライアアおけやせうト三人ハ下ハをり
かゆて人まはくあひまの船瀬のりうる根船お打のり
りあく 酒肴をえいさく 銀多くと掉さうぬま三味線
あーのまごめあま色こめく夏ハがむびく酒お茶さう

早引申入下

ひんてんの「ナゼ」〜あんまき〜の娘を鬼女とてどろろ鬼
と名乗る子「おめさ鬼のりぢやア嫁入せぬぢや〜」
婦人どろろぢや〜増湯家どろろぢや〜
〜そと六人の隣りさ子〜も〜
〜甘露糖とのみ本腰をちよ
つひりはせんと信悦をせうそも〜の笑婦人を増
婦人の好む〜の〜原末客員と〜の枝巻と
〜あ〜今〜せぬぢや〜婦人どろろ

分限者かを後〜ゆどもマア毒細工〜ふは山紙巻をや
りの酒長宴ふま〜ねと〜は〜一向不承
知のち〜の〜笑婦〜の〜お小思ひから
〜男〜の〜を〜
〜ん〜の〜
尾小尾をつけ〜源〜
か〜の〜
婦人ぬぬあ〜る〜大〜げぬ



けしきどナ一向あびえさるひまうらくと金つらき花弁
 ち相後ハ出まざとさへくまひと一とさへひよ方入階の
 のちをふらうしつらういふあのみはえでも統ぢやあら人化
 し金をこらふらやあこののころひまをさるちまうア
 子のころのちやアのつエテ店番やを交の元ハりさく
 金ぐのうけえうらと統ぢのもま移入自分の方う統ぢ
 小金をまていちやア移ぢいあしの敷ひまのいと女弟う
 ま女を男やう小初うかろろ芳ちげさのう春さん
 早引中ノナ

ぢやア移入うマろくそのやアのふと盛と傾むけやう
 足下ハをりふ実がくこりまぢもまぢうらとあうら
 跡く居てよひがまてくあういんふさうぢけさうはは
 を頂戴のまてくつりていさよりのまてくつりていさ
 むまてくつりていさよりのまてくつりていさよりのま
 着入はくぬまてくつりていさよりのまてくつりていさ
 太公接ぬくちまてくつりていさよりのまてくつりていさ
 とくまてくつりていさよりのまてくつりていさよりのま

113
4449
2

免^りの^きま^りき^りよ^りト^りシ^りら^り傳^る者^りの^りし^りら^りこ^りん^りん^りん^り
渡^きの^りか^り籍^りを^りな^りめ^りと^りぞ^り漕^りで^りや^り

盛^り衰^り枯^り娘^り太^り平^り記^り操^り早^り引^り中^り之^り卷^り終^り

早引中ノ十七

